

## 流動化処理工法(LSS工法)

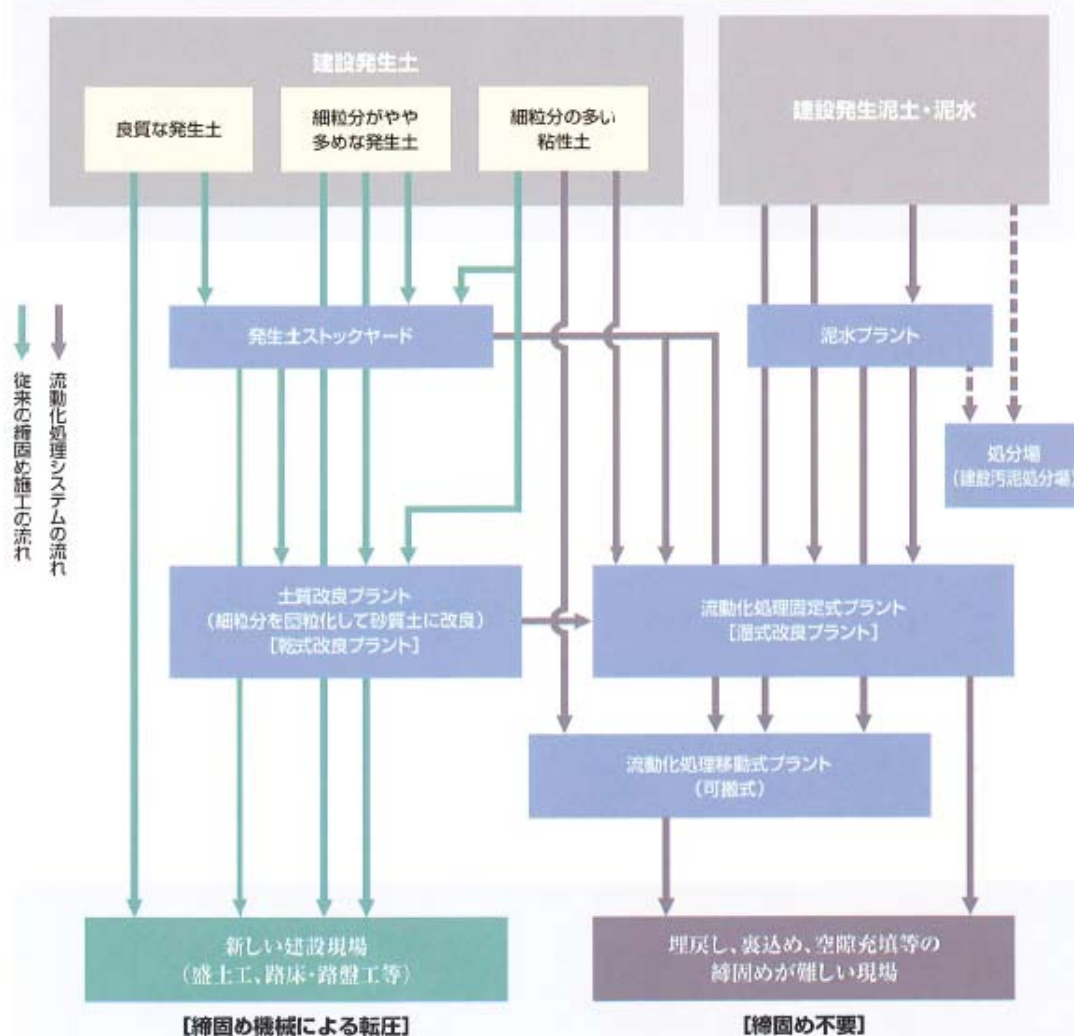
## 流動化処理工法とは

土の締め固めが困難な狭い埋戻し箇所等へ、必要強度を得るために適切に配合設計された固化材を添加した流動化処理土（建設発生土・泥土のリサイクル材）を打設することにより、締固めを不要にする工法です。

## 特徴

- 建設工事で発生するすべての土を利用できます。
- 使用目的に応じて多様な処理土が提供できます。
- 地震時の液状化や、地下浸透水の浸食を防止する効果があります。
- 埋設物の補強、並びに埋戻し施工の合理化が図れます。
- 製造された処理土の品質の均質性が保証できます。

## 建設発生土・泥土再利用システム構想図



## 【利用対象工事】

- 1) 各種ライフライン等の埋設物の埋戻し
- 2) 擁壁、共同溝、地下鉄、建築基礎、推進用立坑等の狭い空間の埋戻し
- 3) 廃坑等、不要な地下空洞の埋戻し、充填
- 4) 水中盛土工
- 5) 埋戻し部の地震時液状化防止、並びに地下浸透水による土砂の浸食防止
- 6) 締固め施工が不可能な条件下における、均質な土構造体の構築



## 【適用例】



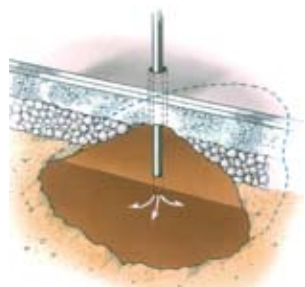
共同溝の埋戻し



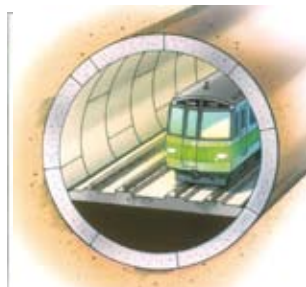
橋台、擁壁の埋戻し・裏込め



地盤沈下で生じた空洞部充填



路面下空洞の充填



地下鉄複線invertインバート部



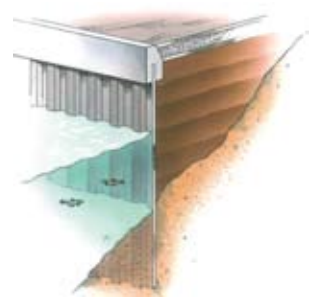
建築物の埋戻し



埋設管の埋戻し

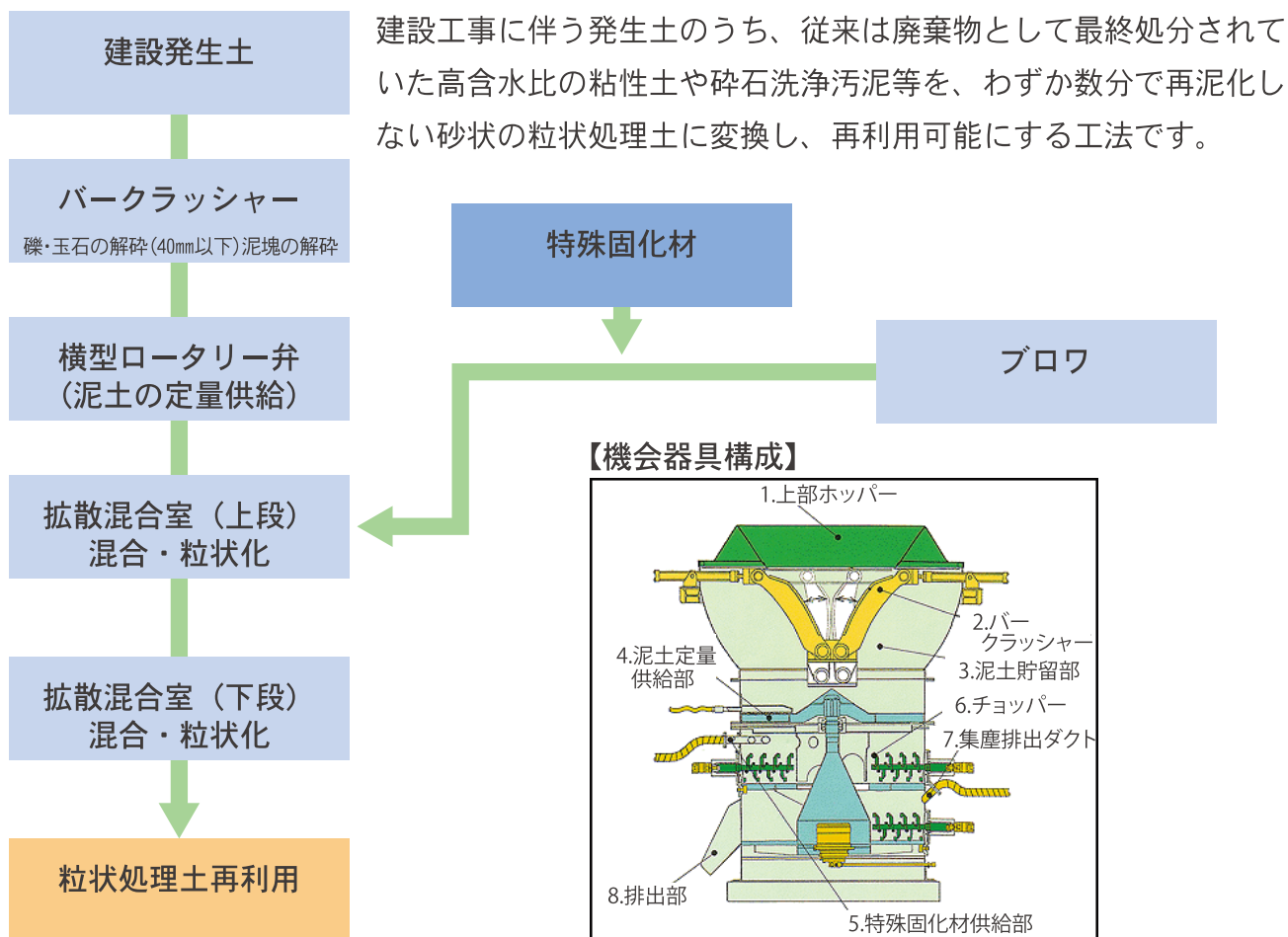


ケーブル埋設・埋戻し

共同溝護岸の裏込め  
(水中施工含む)埋戻し

### 泥土均一粒状化処理工法 (オディクリーン工法)

高含水率の泥土を現物プラントで短時間に粒状土にして再利用します。



泥土投入



処理土排出



## 特徴

- 均一な粒状処理土
  - ・六価クロム等の有害物質の溶出を抑制する作用があります。
  - ・pH値の調節が可能です。
  - ・固化材の使用量の調整により幅広い含水状態の泥土均一粒状処理が可能です。
- 前処理不要
 

礫の除去、脱水等の前処理が必要ありません。事前分別装置（バークラッシャー）により礫、玉石、泥塊を40mm以下に破碎します。また含まれている水分は高分子改良剤により処理土内に閉じ込められます。
- 省スペース
 

縦型多段処理構造で場所をとらず、各ユニットは移動が簡単です。また、本体のみを分離して狭い場所へ設置することもできます。
- 連続処理
 

高含水比の泥土を連続処理し、約3分でコーン指数200～400kN/m<sup>2</sup>（排出口の強度）の粒状土に変えます。

## 処理土の特徴

- ・透水性があり処理直後でも再泥化しません。
- ・特殊固化材を効率よく混合し均一に粒状化されているので固定能力が高く六価クロム等の有害物質の溶出を抑制することができます。
- ・専用の固化材を使用することにより、PH値を適正値にすることができます。



## 【参考写真】



OD-005  
処理能力：3～4m<sup>3</sup>/h



OD-015  
処理能力：10～12m<sup>3</sup>/h



OD-030  
処理能力：20～24m<sup>3</sup>/h